

平成 30 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ講座Ⅱ 准教授
氏名 Name	松本健二
専門分野 Academic Field	現代スペイン語文学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	現代スペイン語文学
<p>1) 科研「チリのポスト軍政期文学の挑戦：スリータとエルティッツの文学に関する総合的研究」</p> <p>上記科研（基盤C：17K02618）に関して資料収集と読解および論文執筆を行なった。今年度はラウル・スリータが 1994 年の詩集『新生』（La vida nueva）を執筆するに至る経緯をトラウマ的記憶の表象化という観点からとりあげ、軍政時代の初期に拉致殺害された政治的失踪者（los desaparecidos）の問題を詩的言語がどのようにイメージしてきかを考察した。成果をいったん国内の研究会で公表（2018年11月18日／東京スペイン語文学研究会）、そのうえで1985年に刊行された詩集『かの消え失せた愛に寄せる歌』（Canto a su amor desaparecido）を中心とする資料整理をサンティアゴのチリ国立図書館等で実施し（2018年12月17日～24日）、それらの成果を論文「トラウマ的記憶を詩にする困難—ラウル・スリータ『その消え失せた愛に寄せる歌』に関する考察—」（『Estudios Hispánicos』／2019年／43号／pp.57-80）として公表した。ディアメラ・エルティッツに関しては初期の小説『ルンペリカ』等の読解および先行研究の整理を進めるとともに、サンティアゴのチリ国立図書館や古書籍店等で写真家パス・エラスリスとの共著という形で編まれた写真本『魂の梗塞』（El infarto del alma）をはじめとする一次資料の補完を行なった（2019年3月10日～19日）。</p> <p>2) 翻訳</p> <p>パブロ・ネルーダ『大いなる歌』（現代企画室、2018年9月刊）の翻訳を刊行した。</p> <p>3) 書評</p> <p>2017年のスペイン語文学を回顧する記事（「スペイン語圏文学」『文藝年鑑2018』／2018年6月／新潮社／pp.84-86）、2018年のスペイン語文学を回顧する記事（「他者を排除することで成立してきた虚構（フェイク）を暴く～排外主義のトランプ政権とどう渡り合っていくか」『図書新聞』海外文学・文化回顧2018年ラテンアメリカ／2018年12月22日／第3380号／p.7）をそれぞれ執筆した。</p>	